

アゼルバイジャンにおける道路整備状況

アゼルバイジャンの道路網はバクーを中心として全国に張り巡らされており、政府が管理する道路の総延長は 78,349km(昨年末)。アゼルバイジャンとほぼ同面積である北海道の道路総延長が約 9 万 km なので、こちらも大体同じです。バクーと他国の首都及び国内の主要都市を結ぶ路線は、ヨーロッパ・ハイウェイやアジア・ハイウェイとされています。

アゼルバイジャン国内各地を走ってみると、地方へ行っても小さな村まで道路がきれいに整備、舗装されており、データで上の道路舗装率 67%以上に感じます。実際、政府は道路整備事業を積極的に進めており、例えば昨年は道路建設・再整備に関する 28 本の大統領令が出され、1 億 4,200 万マナト(約 120 億円)の国家予算が割り当てられました。また、世界銀行、アジア開発銀行(ADB)、欧州復興開発銀行(EBRD)等の様々なドナーがアゼルバイジャンの道路整備への融資を行っており、重要な役割を担っています。

道路整備は解放地域(アルメニア占領下から解放されたカラバフなどの地域)でも進展中です。フズリからアゼルバイジャンの「こころの故郷」シュシャへ繋がる「勝利の道」がいち早く完成し、現在は並行して高速道路を建設中です。また、解放地域からザンゲズル(又はイラン)経由で飛び地ナヒチバン、トルコへ繋がる道路整備も進んでいます。このほか、中央部の主要都市ギャンジャ方面から 3 千 m 級の山脈を貫通してカラバフ北部へ入る「ムロブダグ・トンネル」(全長 11.6km、写真(当館撮影))の大規模工事が 25 年竣工を目指して鋭意進められています。

最近の話題として、今秋、バクー近郊からロシア国境までの区間(129km)に、当国初の有料道路が開通しました(料金は最長区間で乗用車 12 マナト(約 1 千円)、写真(trend 社ニュースサイトより))。今後、国内主要区間でこのような有料道路が増えてくるのかも知れません。



(以上)